

世界遺産の文楽と日本一の黒門市場 ～大阪のほんまもんの芸と食を巡る～



大阪が世界に誇る伝統芸能・文楽。その殿堂の国立文楽劇場から、大阪ミナミ唯一のお茶屋さんや、『摂津名所図会』にも描かれている二ツ井戸跡などを巡ります。最後は日本一(日本橋一丁目。もちろん味も日本一!)の黒門市場で買い物を楽しみましょう。

① 谷崎潤一郎文学碑

谷崎潤一郎(1886～1965)は東京生まれの小説家で、大正12年(1923)の関東大震災を契機に関西に移り住み、その伝統文化や風土に感化されて『春琴抄』『細雪』など大阪を舞台にした数多くの名作、傑作を世に生み出しました。文学碑には『夢喰ふ蟲』の一節が刻まれています。小説の中では東京から移住してきた主人公が文楽芝居を見に行き、上方演芸の伝統美の世界に惹かれてゆく様子などが示されて、自伝的要素が強い作品として知られています。

② 国立文楽劇場

昭和59年(1984)開館。ユネスコの世界無形遺産に指定されている人形浄瑠璃(文楽)の公演を中心に、歌舞伎、舞踊、邦楽、落語、漫才、浪曲などの興行も開かれて、上方芸能の一大発信文化拠点となっています。舞台の模型、三味線、人形、衣装の展示室があり、上方演芸関係の雑誌などを閲覧できる図書室などもあります。また設計は黒川紀章で、第2回公共建築優秀賞を受賞しています。

③ 下大和橋

道頓堀川の最上流に架かる橋です。かつて界限には大和町(東横堀川から日本橋筋付近まで)があって、それが橋名の由来となっています。金比羅詣の舟の発着場があり、参詣客相手の舟宿で大変賑わっていたと伝えられています。また正徳5年(1715)に初演された近松門左衛門作の『生玉心中』の「大和橋出見世の場」では「こころこころの、商ひも、みな世渡りの大和橋、下行く水の泡よりも、色にぞ銀(かね)は消えやすく」と表現されています。明治36年(1903)に橋付近に巡航船の乗船場ができ、最盛期には1日2万人もの利用客がある交通機関でしたが、市電の拡張に伴い、大正3年(1914)には廃止されました。

④ 島之内たに川

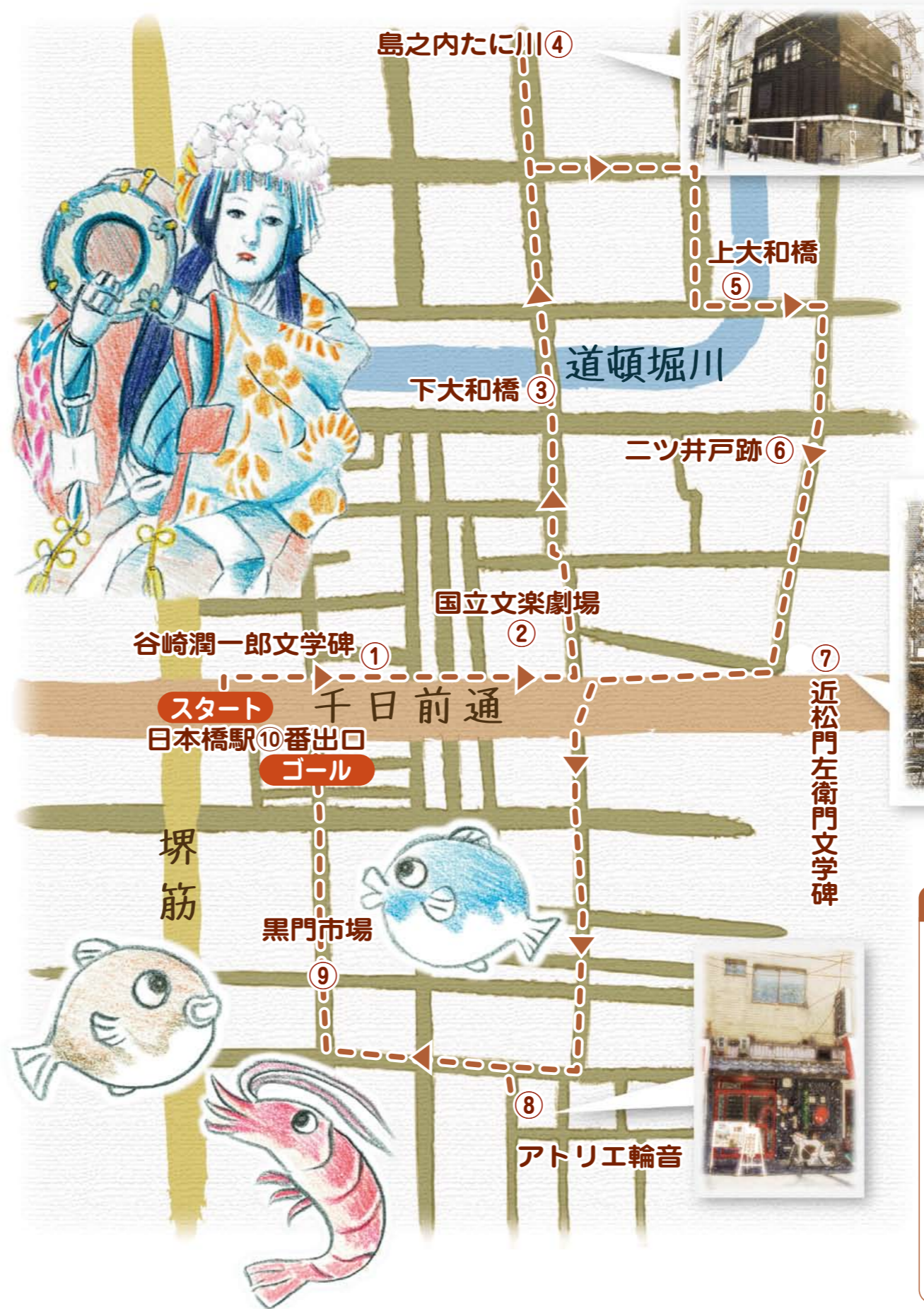
南地唯一のお茶屋です。昭和44年(1969)に元芸妓の谷川恵美子氏が料亭を買って創業しました。昭和63年(1988)に4階建てビルに建て替えて、中に数寄屋造りのお座敷を設けています。現在は若旦那の2代目・谷川恵氏が、テレビ、新聞などのメディアに頻りに登場し、南地のお茶屋文化を伝えています。

⑤ 上大和橋

道頓堀川開削以前は、ここまでしか堀川がなかったため、この場所は、堀止めとか堀詰めと呼ばれていましたが、元和元年(1615)に道頓堀が開削された後は、この地は物質の集散地として荷車などが集まることとなりました。堀止め付近に橋が架けられた年代は不詳ですが、現在のように上・下大和橋の位置が定まったのは、元禄後期の頃と考えられています。

⑥ 二ツ井戸跡

寛永11年(1634)、徳川3代将軍・徳川家光が地子銀(現在の固定資産税)を永代免除したさいに、大坂庶民は恩恵を忘れないために「仁政の鐘」を作りました。そのさいに冷却水として選ばれたのが大坂一の水質を誇る二ツ井戸でした。この由緒ある井戸にちなんで付近は二ツ井戸町(昭和58年より道頓堀1丁目となる)と呼ばれていましたが、現在では跡形もありません。『まけすおとらずヶ津自慢競』(天保11年・1840年刊)には「江戸の有馬の火の見」と「京都の知恩院の傘」と並び称されています。



⑦ 近松門左衛門文学碑

近松門左衛門(1653～1724)は江戸時代に活躍した歌舞伎・浄瑠璃の作者です。「元禄期の三文人」として井原西鶴、松尾芭蕉と並び称され、近世の浄瑠璃や歌舞伎に大きな足跡を残して「日本のシェークスピア」と高く評価されています。文学碑は昭和59年(1984)の国立文楽劇場完成を記念して建立されたもので「心中重井筒」の一節が刻まれています。「心中重井筒」は、万年町の紺屋・徳兵衛と、六軒町の茶屋「重井筒」の遊女お房が心中した事件を脚色したもので、歌舞伎の四座と操り芝居の三座、道頓堀にかかる橋、牡蠣船などが言葉巧みに詠み込まれ、当時の大阪ミナミの様子を伝える浄瑠璃として名高い作品です。

⑧ アトリエ輪音

平成19年(2007)、飲食店の空きテナントを改装して開店したアートギャラリー&コミュニティ・スペースです。日替わり店主制で、新人、若手のアート作家の展示空間、交流サロンとして機能しています。またNPO法人「道頓堀アート座」を組織して、公共施設、公園、近代建築などでアートイベントを行っています。



⑨ 黒門市場

明治末まで日本橋2丁目に圓明寺という寺があったことから「圓明寺市場」と呼ばれていましたが、圓明寺には黒い山門があり、これが「黒門市場」と呼ばれる所以となりました。『摂陽奇観』によれば「文政の頃より毎朝魚商人、この辺に集まりて魚の売買をなし、午後には諸方のなぐれ魚を持ち寄りて、日本橋にて売り捌くこと南陽の繁昌なるや」とあって、これが市場の起源であると考えられています。織田作之助の小説『夫婦善哉』にも登場して「夜更けて赤電車帰った。日本橋1丁目降りて、野良犬がごみ箱をあさっている。ほかに人通りもなく静まり返った中に、ただ魚の生臭い臭気が漂っている黒門市場の中を通り、路地へ入ると、ブンブン良いにおいがした。」と記述されています。「大阪の台所」とも呼ばれて、大阪ミナミを代表する市場です。



【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または **大阪あそ歩** でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。